

公益財団法人 福岡アジア都市研究所 都市政策資料室

URC資料室だより NO.70 平成26年4月号

福岡アジア都市研究所は、
福岡市を中心に産学官が協力して
設立した研究機関です

目次

- ◆統合10周年を迎えたURC /副理事長 副島広巳 . . . 1
- ◆平成26年度事業紹介/事務局長 梶原信一 . . . 1
- ◆URC資料室ニュース 2
- ◆平成25年度URC活動報告 2
- ◆所員雑感/元主任研究員 天野宏欣 2
- ◆今月のおすすめ/瀧山直子 3
- ◆マスコミでみるURCの今 4
- ◆資料速報 平成26年3~4月受入分 5

統合10周年を迎えたURC

副理事長 副島広巳

10年前の2004年(平成16年)4月、(財)福岡都市科学研究所(旧URC)と(財)アジア太平洋センター(APC)が統合し、現在の(公財)福岡アジア都市研究所(URC)として再出発しました。

今、時代の様々なうねりの中でURCが活動を続けていくことができるのも、ひとえに私ども研究所を支えていただいた皆さまのおかげと、この資料室だよりの紙面を借りて心から感謝を申し上げます。

さて、両研究機関の生い立ちや統合のいきさつについてご紹介したいのですが、詳細については2008年7月にURCが発行した都市情報誌「エフ・ユー・プラス第5号」の特集記事「URCの20年(元URC理事長 榎木 武)」に譲るとして、ここではそのあらましを記させていただきます。

(財)福岡都市科学研究所は1988年(昭和63年)8月に設立。その目的は、各界各層の協力と連携のもとに、都市経営の視点と長期的展望に立った都市政策を研究し、将来の都市戦略を考えるというものでした。

一方、(財)アジア太平洋センターは1992年(平成4年)10月設立し、学術分野においてアジア太平洋地域との交流を図ることを目的としていました。

その両機関の統合にあたって、新URCは「福岡市や市民、産業界、学界などの協力と連携のもとに都市政策を研究し、アジアの視点をも取り入れながら、将来の都市戦略を提言する」ことを目的としました。

統合した翌年の2005年、福岡県西方沖地震が発生し大きな被害をもたらしたことから「地震に負けないコミュニティとまちづくりに関する研究」を行いました。2006年には「福岡博(福岡・博多)が連携する都市のまちづくりとその戦略に関する研究」を取りまとめました。これらの研究は地域に役立つことを意識した実践研究であると言えます。また福岡市の将来の都市構造、集客都市・福岡のイメージ戦略、東アジア地方自治体の国際化施策の研究を推進しました。

以上が統合時点の状況ですが、新URCはこの統合により大きな財産を獲得することができたのではないかと考えています。つまり旧URCがそれまで継続的に行ってきた

「都市のあり方を多面的に探る」というテーマをベースに、APCが培ってきた人脈、コネクションを引き継ぎ、国内外の企業、大学、研究機関との人的ネットワークを最大限活かし、アジアの研究機関や大学との共同研究なども視野に入れながら活動の幅を広げることが可能となったのです。

現代の都市に横たわる課題は多岐に亘っており、その構図は決して簡単ではありません。地域には超高齢社会の進展があり、また外に目を向ければ現下の厳しい東アジア情勢が待ち構えています。また産業の活性化や教育の問題もあります。

統合して10年を経たURCの大きな使命は、このようなアジアと都市を巡る内外の問題に果敢に挑み、福岡地域が真の意味において都市のリーダーと呼ばれるために取り組むことであると考えます。皆さまのなお一層のご支援、ご協力をお願いする次第です。

平成26年度 事業紹介 事務局長 梶原信一

さくら咲く4月とともに新年度がはじまりました。

年度末から年度初めにかけては、日本の官公庁や多くの企業にとって人事異動の時期に当たります。URCにおいても、3月末に退職・転出した職員との別れがあり、4月に新たに採用・転入した職員を迎え、新年度から、新たな体制で事業を進めていっております。

平成26年度のURC事業の大きな枠組みは、これまで同様、アジアの視点も取り入れた都市政策の調査研究です。枠組みは変わりませんが、これまで実施してきた事業の評価を行い、課題を改善しながら、良い点はさらに磨きをかけいくことにしております。

総合研究については、「スタートアップⅡ」、「都市の競争力」(いずれも仮題)の2本をテーマに調査研究を行います。

平成25年度に始めた都市情報誌「フクオカグロース」の発行(HP上)については、データを示しながら、分析コメントもつけて福岡をPRするものでしたが、本年度はさらに、世界の都市との比較を通じて福岡のグローバルポジションが理解でき、積極的に海外にも発信できるようなものにしたいと考えております。

また、本年度開催で第5回目となる「アジア都市景観賞」表彰式についても、福岡で開催される特色のある国際会議となるよう取り組んでいくこととしております。

そのほか、いろいろな事業取組や活動に取り組んでいく予定ですので、賛助会員の皆様におかれましては今年度もぜひご期待ください。

新聞等で報道されご承知のことと思いますが、福岡市が創業特区として国の戦略特区に指定されました。これから、福岡市は創業特区の目標に向けて全力で取り組んでいくこととなりますが、URCにおいてもそのような動きを踏まえながら、これからも地域のシンクタンクとして、福岡の

発展のために職員一丸となって頑張っていきますので、引き続きご支援・ご協力をお願いいたします。

URC資料室ニュース

本年度 第1回のミニセミナーを開催します！

平成26年度 第1回 都市政策資料室ミニセミナー
「福岡・天神時間旅行上映会」
九州朝日放送創立60周年記念映像資料」



【日時】平成26年5月14日(水) 18:30~20:00
【会場】福岡アジア都市研究所 会議室(福岡市役所北別館6階)

【主催】(公財)福岡アジア都市研究所 共催 福岡市
当研究所のミッションである都市について理解を深めていただくために、ミニセミナーを開催します。

地元の放送局、九州朝日放送さんが創立60周年を機にまとめられた映像作品「福岡・天神時間旅行」は、昨年11月のKBCシネマでの上映以来、多くの場所で上映会を開催され、好評を博していらっしゃいますが、今回、これまで見逃された方を対象に、ミニセミナーで上映させていただきます。上映前後は、作品に特別協力された益田啓一郎さんに解説や質疑応答をしていただきます。

みなさまのご参加をお待ちしております。

平成25年度 URC活動報告

その1 市民研究員が研究活動を修了！

「平成25年度市民研究員副市長報告及び修了式を実施」

3月27日木曜日、平成25年度市民研究員による副市長報告及び修了式を実施しました。



平成25年度は「人が集い輝く福岡のまち」をテーマに、5名の市民研究員の皆様が、昨年6月から約8か月間、個別テーマについての調査研究活動を行い、様々な切り口

からの研究・提言をまとめられました。

2月23日日曜日の最終成果発表会を経ての実施となった副市長報告は、ご都合により3名の研究員による実施となりましたが、それぞれの研究



の要旨や提言を自分の言葉で報告し、貞刈副市長からは、研究への慰労と今後一層のまちづくりへの参画・活躍を期待するコメントをいただきました。

副市長報告に引き続き、URCで修了式を行い、平成25年度の市民研究員活動が全て終了しました。研究員の皆様、大変お疲れさまでした。また、ご支援いただいた皆様、ありがとうございました。

本年度も5月上旬より「スポーツを生かしたまちづくり(仮題)」をテーマに、市民研究員を募集します。興味・関心をお持ちの方は奮ってご応募ください。また、皆様のご家族、友人・知人の方などにも、ぜひ市民研究員(募集)のご案内をお願いいたします。

(主任研究員 白浜康二)

その2 第5回都市セミナーを開催しました。

3月5日水曜日『人が集いスタートアップする都市・福岡の形成に向けて』と題して開催。創業に関心のある市民、事業者、研究者、行政職員など79名の参加を頂きました。

講演では、「起業家精神を学んで、人生を成功させるポイントについて」、「『スタートアップ都市』形成に向けた政策課題に関する研究」、「福岡・日本・世界をボーダレスにつなぐスタートアップなぜ、私は福岡に戻ってきたのか」、「キャリア形成としてのアントレプレナーシップ教育—現場の取り組みの紹介を交えて」という4つのテーマで、社会起業家・研究者それぞれの立場から、新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくりの在り方について、事例や研究結果などを交えながら、紹介して頂きました。

なお、セミナー当日の講演関連資料は、当研究所のホームページにてご覧頂けます。

(研究員 柳基憲)



所員雑感—退職のご挨拶 元主任研究員 天野宏欣

2014年3月に任期を終えURCを退職しました。在職時には福岡市役所をはじめ、福岡県庁、九州大学、福岡地域戦略推進協議会、地方シンクタンク協議会など、様々な関係組織や企業の皆様に支えられ、大変有意義な4年半を過ごすことが出来ました。この場を借りまして、あらためて深謝の意をお伝え申し上げます。

URCで最も印象に残っているプロジェクトを3つ挙げるとしたら、1つ目は、毎年関わることができた市民研究員事業です。年齢層も職業も幅広い市民の皆様と直に触れて、議論する機会を賜ることができたことは、私の人生の大変貴重な財産になっています。

2つ目は、2011年度に福岡市の総合計画改定に先立って実施された「新ビジョンプロジェクト」に参加することができたことです。多くの有識者の福岡の将来への期待やメッセージを、インタビューで直接聞く機会を与えられまして、福岡を見る切り口を増やすことができ、大変良い経験となりました。



この研究に携わって良かったなと心から感じています。自治体シンクタンクの仕事の醍醐味は、現場が間近にあ

3つ目は、2013年度の総合研究でオープンデータについて研究することができ、アジアの都市の政策を取りまとめることでURCならではの視点を提供できたことです。その後、福岡市もオープンデータ先進都市として認知されつつあることから、

ることで、調査研究すべきテーマが具体的で、アクションを起こすべき主体の顔が見えることだと思います。誰がどのような課題に対して、具体的にどのようにアクションしていくべきかを提言するミッションをURCは負っていると思います。地域の社会・経済やアジア交流について深く洞察する様々な人材を集める核にURCがなることで、福岡市とその周辺地域がアジア屈指の住み良い地域として発展するとともに、URCもその価値を高めていくことを期待しています。(写真：昨年10月、2013年度第20回「日韓海峡圏研究機関協議会」で研究報告を行う天野宏欣主任研究員)

今月のおすすめ 「ジン愛—フリーペーパーの秘かな愉しみ—」(元総務課・瀧山直子)

ジンのスピリットを感じさせる出版物が好きです。お酒??と思われた方、それは違います! 全国区の“ARNE”(大橋歩。終刊して久しいですが)、“Murmur Magazine”(初期のものが特に好きです)、“modern juice”(近代ナリコ)などご存知ありませんか? 資生堂の“花椿”もジンばいんです(私にとっては...)。また個性派では、大阪のレトロビルを紹介する“月刊ビル”(年数回発行。全然月刊ではないのに月刊と名付けている謎...)とか野宿愛を語るアラサー女子の“野宿野郎”も。地元福岡からは“ぱんとたまねぎ”やパン屋さんC'est très bonの“おいしいパンの通信”をパン好きの方に強力におすすめします。そう、ジンとは「簡単な印刷で少部数作られる小冊子のこと。電子書籍はじめデジタル表現が全盛の時代なのに、作り手が急増、紙にこだわった手作りの世界が、新しいアート、メディアとして、注目を集めています」(朝日新聞デジタル版 2011年11月25日)。福岡では、早くも2008年秋に「フリーペーパー=小さなメディアの放つ光」(福岡市文化芸術振興財団。BOOKUOKA イベント。我が“都市情報誌 f U+ Vol.6”に登場してくれました)が、2011年夏には金沢21世紀美術館で「art-ZINE: 冊子型アート・コミュニケーション」が開催されています。また、去年代官山の蔦屋書店に行った時は、コロンビアやヨルダンといった珍しい国も含めてアートっぽいジンが多数並んでいて大興奮しました! 私にとってジンとは、①手作り感あふれる②あまり商売っ気がない③デザインなど細部にこだわりがある、冊子や雑誌なのです。

せんだい・スクール・オブ・デザイン(東北大学)の“S-meme”(エスミーム)を新聞で偶然知り、ジンの



なんと20枚ほどのちらし状の記事をたくみに折りたたんだデザインの凝ったもの(上写真)。仙台カルチャーの担い手が続々登場、震災についての言及もあり、まちづくりの情報誌としても読める内容です。個人的には、

匂いをかぎつけ早速、都市政策資料室に寄贈いただきました。6号(2013年発行)は「演劇/ライブから考える」と題し、紙のメディアでしかできないことをという発行者の意図で

「火星の庭」の前野久美子さん(“女子の古本屋”(岡崎武志 ちくま文庫)に登場するブックカフェ店主)の話がやっぱり面白かったです。仙台行ったことないですが、行きたくなりました。なお、資料室に最新号の7号(「仙台文学・映画の想像力」)が到着しています。(下写真) 何ととっても、究極のジンは学校や家庭の壁新聞(しかも手書きでオリジナルの一部のみ存在)だと思います。皆さまのご家庭にありましたら、ご一報ください。ぜひ拝見したいです!

追記: URCでの勤務をこの3月末に終えました。“都市情報誌 f U+”担当として、8年間・計13号の発行に携わりました。福岡のまちづくりに関わる様々な方々が執筆や取材にご協力くださいましたこと、深くお礼申し上げます。皆さまの福岡愛を感じる、大変と同時に楽しい仕事でした。また、どこかでお会いしましょう!



おまけ:「フリーマガジンフェア vol.2~もっと楽しむ! 新しい本のかたち~」開催!

(日時: 5月17~25日 会場: 文化芸術情報館アトリエ(福岡市博多区下川端3-1 福岡アジア美術館7F)) ジンが好きな皆さま、この文章を読んで興味を持ってくださった皆さまぜひ!

“S-meme” vol.7の装幀は長い蛇腹(中写真)。スタッフの手作業で(下写真)。vol.6は都市政策資料室ではどのような姿になっているか...気になる方はぜひ!



写真提供: せんだいスクール・オブ・デザイン HP (<http://sendaischoolofdesign.jp/>) Twitter (https://twitter.com/ssd_jp)

◆マスコミで見る「URC」の今！—最近1か月の情報を中心に—

◎新聞（記事は資料室で読めます。）

(2014/4/5 読売新聞 福岡西かわらばん 1p)

姪浜大好き落書き消し隊 児童8人寺でペンキ塗り
昔からある場所大事にしたい @印以下関連記事
研究所OB大塚政徳さんが事務局長を務める唐津街
道姪浜まちづくり協議会の活動報告

(2014/3/30 西日本新聞 朝刊 32p)

2020年 理想の福岡都心は？ 国体道路軸にまちづくり
探る-来月11日天神でシンポ、聴講者募集
当研究所後援のシンポジウムの開催予告
市民研究員OB-福田忠昭さん、吉原勝己さんがパネリ
ストとして参加

(2014/3/30 毎日新聞 地方版 29p)

OITA 見聞録:「おおいたトイレナーレ」へ4作品完成
トイレとアート融合、新しい街巡りモデルに/大分
市民研究員OB藤浩志さんが参加

(2014/3/28 建設通信新聞 14p)

九州風景街道会議が「あまくさ」を新規承認/マイスター
に6人認定 榑木武前顧問がマイスターに選定される

(2014/3/28 西日本新聞 朝刊 24p)

清掃で校舎に別れ 閉校の大名小あすからイベント
一般市民に開放、灯明で校章も
市民研究員OB藤浩志さんが参加

(2014/3/28 西日本新聞 朝刊 26p)

軍師の素顔-創る拓く官兵衛のまち 第2部 問1.天下
取り狙った？ YES派6人:九州平定が鍵 NO派5人:
家康への忠義 市民研究員OG井上光枝さんがコメント

(2014/3/23 熊本日日新聞 朝刊 4p)

◎くまにち論壇=地域の2025年問題に向けて(小川全
夫、熊本学園大学社会福祉学部教授)
小川全夫特別研究員が執筆

(2014/3/22 西日本新聞 朝刊 24p)

扉の向こうへ 博多千年門誕生 下 次世代見据
え議論を 市民研究員OG池田節子さんがコメント

(2014/3/22 西日本新聞 朝刊 24p)

郷土料理や酒に舌鼓 あすまで「食の都ふくおか」
天神 福岡地域戦略推進協議会(以下 FDC)が
関わるイベントの紹介記事 ☆印以下関連記事

(2014/3/22 西日本新聞 朝刊 26p)

福岡の食材世界も絶賛一流シェフが絶品料理に☆

(2014/3/21 熱海新聞 2p)

「建築物は作品」混流温泉文化祭で“まちのアート”
語る 市民研究員OB藤浩志さんが参加

(2014/3/21 西日本新聞 朝刊 28p)

海外のシェフたち県産食材に出会う☆

(2014/3/20 熊本日日新聞 朝刊 23p)

訪問看護サービス体制の充実など報告 県社会福祉審
議会 小川全夫特別研究員が熊本県社会福祉審議会
専門分科会保健福祉推進部会の委員長を務める

(2014/3/20 佐賀新聞 朝刊 16p)

イベント 福岡市「食の都ふくおか2014」☆

(2014/3/19 西日本新聞 朝刊 34p)

もっと九州 情報トピック! 「食の都ふくおか」満
喫 21~23日福岡市役所西側広場 ☆

(2014/3/19 高知新聞 朝刊 27p)

「とさトピ」21日に芸術活動考えるセミナー 予告
市民研究員OB藤浩志さんが参加

(2014/3/14 西日本新聞 朝刊 26p)

姪浜の名所相撲甚句に♪住吉神社は総鎮守 愛宕神
社に鳩が舞う 西区の小松さんが作詞「まちづくりに
一役」

研究所OB大塚政徳さんが事務局長を務める唐津街
道姪浜まちづくり協議会が昨年日本まちづくり大賞
を受賞したのを機に同地区の有志が相撲甚句を作詞

(2014/3/9 福島民報 5p)

震災後の活動日比野さん語る いわきで芸術計画
市民研究員OB藤浩志さんが参加

(2014/3/9 読売新聞 朝刊 35p)

[ホットボイス]農山漁村体験 企画力が大事 小川
全夫さん=山口

小川全夫特別研究員が山口県の体験型教育旅行推進
会議の座長として紹介される。

(2014/3/5 東奥日報 朝刊 17p)

十和田/「芸術祭」入場7万人超 実行委報告会 65%
は県外から

市民研究員OB藤浩志さんが報告

(2014/3/2 毎日新聞 朝刊 27p)

町並み“落書き消し隊”活躍@

◎雑誌

(2014/3/31 かわら版-唐津街道姪浜まちづくり協議
会 第七号)

研究所OB大塚政徳さんが事務局長を務める唐津
街道姪浜まちづくり協議会がかわら版を発行 本
人も多数執筆

(2014/3/28 フォーラム福岡 Vol.54)

特集:「MICE」都市を目指して

41p MICEの誘致は福岡に来る必然性を創り出す
取り組み 産学官民共働で「MICEビューロー」が
スタート FDCが実現を担った組織として紹介さ
れる。*印以下関連記事

45p MICEで求められるのはビジネスにつながる
有益性の高い会議 54p~の記事が引用される。

54~56p SPECIAL REPORT MICE 国際誘致競争
を牽引する都市としてを畠山尚久情報戦略室研究主
査が執筆

(2014/3/25 MICE JAPAN 2014.4)

14p 産学官民協働でMICEビューローを実現*

15p 「アジアで最も持続可能な地域」をめざす
後藤太一FDC事務局長がインタビューに答える。

(2014/2 彩都-福岡市都市景観情報誌-No.18 22p)

第4回アジア都市景観賞の表彰式を福岡市で開催

◎ネットニュース

(2014/3/13 オープンデータ流通推進コンソーシアム
ニュース)

情報戦略室に係る福岡市制作の「Fukuoka Facts」
が日本マイクロソフト賞を受賞